

## 令和4年第2回市議会定例会 所信表明

令和4年6月6日

### 【ご挨拶】

去る3月に行われました合志市長選挙におきまして、引き続き市政を担わせていただくことになりました。改めて私に課されました使命と責任の重さに身の引き締まる思いです。

これまで、3期12年間合志市の発展に尽くしてまいりましたが、4期目の市長就任後初の市議会定例会の冒頭におきまして、今後の4年間の市政運営にあたり、私の所信を施政方針として申し述べさせていただき、市議会議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

### 【社会情勢】

新型コロナウイルス感染症の影響により、わずか2年半の期間で社会が一変しました。当たり前だと思っていた日常生活が、決して当たり前ではなく、かけがえのないものであるということを感じ知らされました。コロナ禍、コロナ災害からいのちを守るための感染症対策と、日々の暮らしを支えるための経済対策を両立しコロナ対策を進めてきました。

市として新型コロナウイルス感染症対策本部を設置してから、会議開催回数は40回を超え、めまぐるしく事態が変容する様々な課題について協議を重ね、対応してまいりました。昨年のデルタ株から本年のオミクロン株などによる、まさに感染爆発ともいえる状況の中、住民に一番身近な基礎自治体として県と連携しながら必要に応じて対応を見直し、様々な対応を行ってまいりました。これからは、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた事業に取り組み、基礎自治体の役割をきちんと果たし対応してまいります。

### 【4期目のまちづくり】

政策課題としましては、合志市総合計画第2次基本構想で

示した、将来都市像「元気・活力・創造のまち」の実現を目指して、まちづくりの基本理念である「人と自然を大切にした協働によるまちづくり」の達成に向け新たな課題に対応しつつ、「自治の健康」・「福祉の健康」・「教育の健康」・「生活環境の健康」・「産業の健康」・「都市基盤の健康」の「6つの健康」の実現に積極的に取り組むとともに、SDGSの達成に向けた取り組みを行います。

### 【重要課題】

合志市が直面している重要課題は、大きく分けて6つあると考えます。

一つ目は、少子高齢社会への対応です。本市は、人口増加が続いておりますが、自然増加による人口増加は微増になり、社会増により人口増加が続いている現実があります。

合志市で、子供が生まれ育つ環境をさらに推進してまいります。平成22年の就任当時の認可保育所は15ヶ所でしたが、これまでに8園を増園し現在は23ヶ所の認可保育所を認可するとともに、認定こども園を3園、地域型保育事業所5園を設置し、定員についても1,100名以上増員し待機児童の解消にこれまで努めてまいりました。これからも、柔軟な対応による保育所や学童保育施設の整備などに取り組みます。

また、子ども医療費について、子育て支援の一環として財源の確保を図りながら、18歳までの医療費無償化について今議会での条例改正を行い、来年1月からの実施を目指してまいります。

教育においては、グローバル化や情報化など社会の急激な変化に伴って高度化し複雑化する諸課題への対応が必要となっています。子どもたちが夢とあこがれを持ち、自分にできることを継続し、習慣化することで「生きる力」を身につけてそれぞれの夢を実現し、幸福で明るく笑顔あふれる合志市

の未来を拓く心豊かな人材を育むためのひとつの手段として小中一貫教育を推進し、ICT機器を積極的に活用した教育活動の充実と居場所のある学校づくりを推進していきます。

一方、人口が多い団塊世代の方が75歳以上の後期高齢者となり、超高齢社会を迎えることによる「2025年問題」は、雇用や医療、福祉といった様々な分野への影響が予想されています。誰もが安心して年を重ねても、一人暮らしでも、住み慣れた地域で住み続けることができるように、現在、個別で運用している高齢者・健康・福祉・見守り事業などをこれまで以上に地域のマンパワーとあわせて横断的に結びつけ、行政と市民の双方向性の市民サービスを目指して、デジタルトランスフォーメーションも活用した、官民連携の健幸都市こっしの仕組みづくりを進めてまいります。

二つ目は、将来を見通した都市基盤を整備したまちづくりの実施です。御代志地区土地区画整理事業は、平成30年度から事業を進めてまいりましたが、本年度、熊本電鉄御代志駅の移転や駅前広場の整備が行われます。商業施設も、事業者の選定が完了し、今後、造成工事と建築工事が開始され、令和5年度末の開業を予定しております。本事業により、合志市の東西と南北の軸が交差する基点に新たな拠点生まれ、隣接する地域を活かした、連動性・回遊性のあるまちづくりにさらに取り組んでまいります。

また、これまで整備してきた公共施設が、建築から数十年経過し順に更新時期を迎えます。平成28(2016)年度に策定した公共施設等総合管理計画を基に、公共施設の計画的な建替えや大規模改修工事などを市民生活に支障をきたすことがないように、着実に進めてまいります。

市民の健康づくりと憩いの場でもある公園や社会体育・社会教育施設などは、これまで以上に市民の健康づくりの場となるよう、地域住民のご意見をお聞きしながら、ハード・ソフト両面でさらに活用できるよう検討してまいります。

学校給食施設（旧西合志町エリア）の施設更新と運営については、安定的かつ持続的な給食の提供と運営を考慮し、センター方式での検討を教育委員会と連携し早急に取り組んでまいります。

三つめは、交通対策です。交通対策については中九州横断道路の早期整備に向け、国と県に働きかけを継続するとともに、本市としましても、市内に計画されるインターチェンジへのアクセス道路の計画などに着手いたします。

また、全体的な交通・渋滞対策の広域かつ総合的な協議の場として、昨年度、熊本県を事務局として菊池南部総合交通研究会の設置に至りました。この研究会の中で、公共交通のあり方も含め、広域的な対応にむけた議論を行いながら、国道と県道の改良についても意見し、市道の改良や整備についてもさらに取り組んでまいります。

四つ目は、企業誘致と農商工への支援に取り組みます。

北熊本スマートインターチェンジに加え、中九州横断道路のインターチェンジが市内に2ヶ所整備予定であります。

また、熊本県が整備する新たな工業団地の整備候補地が本市に決定し、最終的な箇所決定に向けた基本計画や基本設計などに本年度着手されることとあわせて、民間企業の進出意欲もさらに高まっていくことが予想されます。先ほど触れましたアクセス道路の整備計画も含め関係機関と情報を共有し、熊本県北部のゲートウェイとしての機能を最大限に生かし、TSMC進出による最大限の効果を取り込みながら、企業誘致と地元企業育成にも取り組んでまいります。

農業への取り組みとしては、持続可能な農業経営と後継者の育成を支援し、バランスのとれた農業生産の推進の基盤となるパイプラインなどの農業施設の更新等に向け、関係機関との協議を進めます。

また、農業従事者が減少するなか、少ない人員で生産量の

向上や環境への負荷軽減となる「スマート農業」を支援していきます。更に民間と連携し特産品の開発、販路拡大に努めてまいります。

商工業については、起業・創業などを後押しし、活気に溢れた魅力ある企業が増えることで、多くの人が行き交う賑わいのあるまちづくりを進めます。また引き続き、経営相談、経営改善普及事業など商工会・金融機関と連携することにより、中小企業者の経営安定を推進してまいります。

五つ目は観光や交流拠点の創出になります。御代志地区土地区画整理事業により合志市の顔づくりはスタートしました。そこからの連動性や連携を持たせた事業として、周辺地域での交流の場づくりに向け取り組んでまいります。

近隣には阿蘇の眺望や風光明媚なロケーションがありながら、国・県有地の限定的な活用により観光や賑わいの場の創出に生かしきれておりません。これから、観光や交流拠点づくりの核となる事業に向けて取り組んでまいります。

六つ目は、SDGS・脱炭素社会・カーボンニュートラルの実現に向けた事業に取り組みます。本年度から、総合計画第3次基本構想の策定にむけた準備が始まります。今、まさに直面しているコロナ禍への様々な対策も踏まえ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

脱炭素社会の実現にむけて、令和5年度を「合志市脱炭素取組元年」と位置づけて積極的に取り組むため、本年度は、熊本連携中枢都市圏の取り組みや本市で利用を見込まれる再生可能エネルギーを踏まえた計画書を様々な視点で策定し、今後の事業に取り組んでまいります。

例えば、ハード面の取り組みとして、本市で稼働する菊池環境保全組合の清掃工場「クリーンの森合志」では、焼却の際に発生する熱エネルギーにより発電する施設がございます。この電力は、清掃工場稼働する電力に使用し、余剰電

力は売電し、構成自治体の負担金を軽減する仕組みとなっておりますが、地産地消、地域循環型の電力としての活用を環境保全組合とともに検討を行ってまいります。

また、太陽光やバイオマス発電などの再生可能エネルギーによる電力調達を拡大するため、発電事業者への働きかけにも取り組み、SDGS・脱炭素社会・カーボンニュートラルの実現に向けた街づくりに取り組んでまいります。

最後に、市政運営における基本姿勢は対話です。就任以来、市民の皆様との対話を重視し市政運営に取り組んでまいりました。ここ2年あまり新型コロナウイルス感染症により、直接対話する機会が減少している中、官・民ともデジタルトランスフォーメーションの進展と取り組みは、さらに拡大していくと考えております。市としましても、様々な分野で包括的にDXを活用した住みよいまちづくりに取り組みますが、今後も、より多くの市民の皆様との対話や意見交換を私の市政運営の原動力として、積極的にすすめてまいります。

私は、この新たな4年間の任期においても、市民の皆様のご期待に応えることに全力を尽くしてまいります。今まで述べてきた課題や新たに生じる難題などに対し職員の先頭に立ち、先送りをせず解決に向けた努力を惜しむことなく、財政規律を維持しながら市民の皆様のために自治体経営を全力で行ってまいります。その結果、市民福祉の向上、さらに質の高い行政サービスを展開することで、「住み続けたい」「住んでよかった」と感じてもらえるようなまちづくりを推進していく覚悟でございます。市民の皆様並びに議員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、私の所信表明といたします。